

令和8年7月23日

於 教育委員会室

令和8年7月

大和市教育委員会定例会

大和市教育委員会

令和8年7月大和市教育委員会定例会

○令和8年7月23日（木曜日）

○出席委員（5名）

1番	教育長職務代理者	前田良行
2番	委員	森園廣子
3番	委員	伊藤健司
4番	委員	三浦里美
5番	教育長	藤井明

○事務局出席者

教育部長	河野孝	教育総務課長	河村章太
学校教育課長	石塚貢		

○書記

教育総務課 政策調整係	高橋晃一	教育総務課 政策調整係 主査	伊藤禎
----------------	------	----------------------	-----

○日程

- 1 開 会
- 2 会議時間の決定
- 3 会議録署名委員の決定
- 4 教育長の報告
- 5 議 事
- 日程第 1 （議案第20号）令和8年度大和市奨学生の決定について
- 6 そ の 他
- 7 閉 会

開会 午前１０時００分

○藤 井 ただいまから教育委員会７月定例会を開会いたします。会議時間は正
教育長 午までといたします。今回の署名委員は、１番、前田委員、２番、森園
委員をお願いいたします。

続きまして、教育長の報告をさせていただきます。教育長の報告をご
覧ください。前月定例会以降の動きになります。

１、大和市交通安全対策協議会役員会、６月３０日、大和市役所。夏
と秋に実施する交通安全運動や違法駐車追放運動、さらに大和市安全な
まちづくり推進大会について、実施内容等の協議、確認をしました。

２、公立中学校と保護司との連絡協議会、７月１日、保健福祉センタ
ー。保護司と中学校の学校関係者、教育委員会が一堂に会し、それぞ
れの活動状況や互いの協力体制について意見交換をするとともに、保護
観察官からは保護観察対象者の状況、スクールソーシャルワーカーからは
その取組についての情報提供がありました。

３、ＭＬＡ・あいさつの会二十歳のフェスタ、７月４日、コミュニテ
ィセンター南林間会館。市長をはじめ衆議院、県・市の議員、地域の子
どもや自治会長、子育て支援の活動を積極的に行っている方々、学校関
係者、市行政職員など多くの人たちが集まり、あいさつ運動２０周年の
お祝いをいたしました。森園会長が先頭を切って、子どもたちのために
尽力してくださっていることに感謝いたします。引き続きお元気で続け
ていただければありがたいと思っております。

４、文部科学省視察、７月８日、渋谷小学校。大和市の外国籍児童生
徒の支援における対応や、日本語支援センター「スマイル」での学習状
況について、文部科学省の職員の視察がありました。

５、学校訪問、７月９日、引地台中学校、桜丘小学校、草柳小学校。
小学校２校、中学校１校に出向き、日頃の児童生徒の様子や特別教室の
見学、また、学校の取組について説明を受けるとともに、意見交換をい
たしました。委員の皆様も一緒に見学しました。

６、納涼盆踊り大会、７月１０日、大東公園。天候にも恵まれ、多く
の人でにぎわう様子は、地域に根差したお祭りという感じで、アットホ
ームな印象を受けました。

７、夏の交通事故防止運動に伴う街頭キャンペーン、７月１３日、大
和駅周辺。大和駅周辺で交通安全のチラシを配布しながら声かけ活動
を行いました。

８、学校訪問、７月１６日、中央林間小学校、南林間中学校、南林間

小学校。内容は前回と同様ですが、学校ごとの特徴や興味深い取組もあり、直接出向いて伺うよさを感じました。

9、地域コミュニティ研修プロジェクト講演、7月18日、コミュニティセンター桜森会館。次代を担う子どもたちをキーワードにした持続可能な地域コミュニティについて考える機会としたいという依頼があり、コミュニティスクール及び学校、PTA、地域の連携や協力体制について、子どもの実態を交えた話をしました。

10、Summer Concertやまと国際オペラ協会、7月18日、文化創造拠点シリウス。舞台を囲むフラットな観客席前列が示すとおり、サロンのようなアットホームな雰囲気の中、オペラをより身近に、そして楽しく鑑賞することができました。

11、大和市剣道選手権大会、7月20日、三機MIRAIスポーツセンター大和。かわいらしい小学生の剣士から隙のない剣士まで多くの選手が集まり、盛大に開催されました。試合開始前には日本剣道形や居合道の演舞も披露されました。

以上でございます。

次月定例会までの予定につきましては、記載のとおりですので、ご覧いただければと思います。

報告は以上でございますが、ただいまの報告に対して、何か質疑、ご意見等ございましたら、お願いいたします。

伊藤委員。

○伊藤委員 意見が3点ほどございます。

学校訪問について、7月に集中して計6校を回ることができたのは、非常に意義深かったと思っております。特に校内教育支援センターの不登校対策としての使われ方について、現状を把握できました。学校によってフル稼働のところもあれば、部屋を設置したのみというところもあります。これは利用する子どもたちの人数にもよると思いますが、不登校対策の柱になっていくものの一つと考えますので、引き続き支援し、ともに育てていきたいと思っております。

特に財政健全化の影響で、サポートされる方の人数の問題により、現状、小学校では週2日、中学校では週4日となっております。利用する方が増えればサポートする先生も必要になります。今、そういった現状なので、小学校では空いている先生が代わる代わるやりくりをしている現場を見ましたので、もう1、2名を、例えば週2日か3日といったような形でサポートしていかないと、パンクしてしまうのではないかと心配です。

あわせて、寺子屋においても活動日数が減少しておりますので、その影響が今後どのように出てくるかということも注視していかなくてはならないと感じました。

また、働き方改革について、学校によって意識改革や実効性の面で苦慮していると感じる点がございました。働き方改革という言葉だけが先行してしまっているところは注意しつつ、大和市ならではの教職員のやりがいの創出など、そういったところに力を入れていかなくてはならないと思いました。

各学校が悩んでいる担い手不足、人員不足については、特に南林間中学校で具体的な話も出ましたので、来年度に向けて早い段階から、南林間中学校に限らず、人事の配置について慎重に進めていく必要があると感じました。

○藤 井 そのほかいかがでしょうか。

教育長 森園委員。

○森 園 3 番のMLA・あいさつの会二十歳のフェスタ、大変ありがとうございました。20 年間継続したということは、会員が高齢化していくという事実もありますが、それにもめげず、20 年たった今も元気で社会貢献できることをうれしく思います。子どもたちのにこにこした笑顔を見ると、自分たちもパワーをもらえます。また、教育長にも最後にすてきな講話をいただきまして、皆さん大変感動しておりました。ありがとうございました。

次に、学校訪問です。学校訪問については、伊藤委員がおっしゃっていたとおりでございますが、しっかりと学校への思いを語らなければいけないと痛感いたしました。

人員不足などは10 年前から言われておりますので、もっと現実的に今、何ができるかを率直に取り上げることも必要であると今回の学校訪問で思いました。

○藤 井 そのほかいかがでしょうか。

教育長 （発言する者なし）

先ほど森園委員からあいさつ運動についてお話がありましたが、あいさつ運動での子どもたちとのほのぼのとした「アットホーム」な関係が、地域や学校でだんだんと薄れていってしまうのではないかという心配をしています。伊藤委員が言った働き方改革をどう捉えながら進めていくかという点にもつながりますが、来年度から各校に導入するコミュニティスクールが一つのきっかけになって、地域と学校が話し合いを通しながら協力体制を進めていけるとよいと思っています。

市内を見ていると、それが素敵な形で出来上がっているところと、まだ課題があるところが見受けられるので、そういうところには、我々もできることを助言したり支援したりしていきたいと思います。私もこの夏休み、少し時間が取れるので、できる限り学校を回りながら管理職の先生と話をしてみようと思っております。

それでは、特にほかにはないようでしたら、ただいまの報告に対する質疑を終了いたします。

◎議 事

- 藤 井 教育長 それでは議事に入ります。
 日程第 1、議案第 20 号「令和 8 年度大和市奨学生の決定について」
 を議題といたします。
 細部説明を求めます。
 石塚学校教育課長。
- 石 塚 学校教育課 長 それでは、議案第 20 号「令和 8 年度大和市奨学生の決定について」
 説明させていただきます。
 資料を 1 枚おめくりください。
 令和 8 年度大和市奨学生選考審査会が 7 月 6 日に行われ、3 名の委員
 全員にご出席いただきました。
 審査会にて、家庭の経済状況、学業成績、納税状況などを総合的に判
 断して答申をいただいたところでございます。
 3 ページ、令和 8 年度、24 名の新たな奨学生の答申を得ておりま
 す。また、4 ページ、現在高校 2 年生の受給者 15 名、5 ページ、現在
 高校 3 年生の受給者 17 名についても答申が得られました。
 今年度高校 1 年生は、申請者 30 名中、所得要件などで 6 名が対象か
 ら外れ、24 名の答申となっております。
 高校 2 年生については、申請者 22 名中、所得要件などで 7 名が外
 れ、15 名の答申となっております。
 高校 3 年生は、申請者 21 名中、所得要件などで 4 名が外れ、17 名
 の答申となっております。
 要件を満たしている 1 年生 24 名、2 年生 15 名、3 年生 17 名の合
 わせて 56 名の奨学生を選考させていただきました。
 今年度も勉学に意欲的にいそしむ学生にとって、この奨学金が一助と
 なるよう、奨学生の決定についてご審議をお願いいたします。
- 藤 井 細部説明が終わりました。

教育長 質疑の際は、プライバシーにご配慮いただき、生徒や保護者の氏名、進学先などには言及せずにご発言いただくようお願いいたします。

それでは、質疑、ご意見等ございましたら、お願いいたします。

伊藤委員。

○伊 藤 委員 これは昨年度もそうですし、前回の会議でも出たことですが、所得要件で、56名が申請を通られた一方で、17名の方が主に所得要件によって外れています。本来の趣旨にのっとって、広く多くの方に奨学金を出してしかるべきだと思います。物価も変わり、出ていくものも大きく上がっていますので、ぜひ来年度は抜本的にこのあたりを見直していただき、広く公正に勉学にいそしむ方に手を差し伸べる姿勢から、多くの方が受給できるような見直しをお願いしたいと思います。

○藤 井 教育長 それに対して、何かありますか。

○石 塚 学校教育課 長 今年度中に、奨学金についての考え方や、それに伴う支給金額、基準について、皆様にご審議いただければと考えております。今は就学援助基準を基にしているので、これだけ独立して基準を見直すとなると、考慮しなければいけない部分もあるかと思いますが、そういったところも含めて今年度中にお諮りしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○伊 藤 委員 募集までに間に合うように、できれば一度テーブルに載せていただきたいと思います。

○藤 井 教育長 この奨学生につきましては、毎年いろいろなご意見をいただいているが、例年どおりの内容となっています。そうした中で、今回、石塚学校教育課長がいろいろ考えて動いてくれて、変更できる点については検討していこうということで進めてくれています。

そういう中で、その場に持っていく意見としてほかに何かありましたら、この場に出していただけると助かると思うのですが、その点も含めていかがでしょうか。

三浦委員。

○三 浦 委員 重複しますが、選考基準を時代に合わせて検討していくのはもちろんのことだと思いますが、加えて、提出書類の書き方について、例えば多くの書類を出さなければいけないといったことがあるのであれば、少し緩和するなど考えてみてもよいのかなと思います。また、毎年、申請の人数が減っているところで、周知の方法をもう一度検討する必要があるのではないかと感じておりますので、そのあたりも一緒に考えていけたらと思っています。

よろしくお願いします。

○藤 井 森園委員。
教育長

○森 園 書類提出の緩和、簡素化は私も思うところです。もう一度お聞きしたいのですが、周知の方法については、保護者に案内が行くということですか。

○石 塚 そうです。各学校を通して、各ご家庭に案内を配っております。
学校教育
課 長

○森 園 そうすると親からの意思で、奨学金をいただいて学びたいということですか。子どもの意思というのはどうなのでしょう。案内は親に行くだけで、子どもには行かないわけですね。

○藤 井 教育委員会から各学校に、この奨学金について案内をします。奨学金は大和市の教育委員会からだけではなく、いろいろな奨学金があります。多くの学校では進路に伴う三者面談で、保護者と生徒がいるときに奨学金の説明や必要な案内の書類をお渡しすることが多いです。

子どもに渡して「見ておいてね、家で相談してね」としても、なかなか保護者に渡らないケースもあります。

ただ、先ほどの周知の方法で言えば、例えばすぐーをもっと活用するなど、ほかの方法も検討する余地があると思っています。

三浦委員。

○三 浦 三者面談などの進路相談のときに保護者の手元に渡るとは思いますが、面談はそれを目当てに行っているわけではなく、進路相談に行っているので、奨学金の案内はそのままかばんに入り込んで、意識から薄れてしまうのかなと思います。

今回、給食費か何かだったと思いますが、年度初めあたりにすぐーで4、5回案内があり、「また来た。」と思うほどでした。すぐーを活用すれば、「また奨学金の案内だ。」と意識に残ると思いますので、そういったのがよいのではないかと思います。

○藤 井 森園委員。
教育長

○森 園 73名が3つの要件で選考されて56名になったということで、17名外れましたよね。その17名のうち、ほとんど経済的な要件で奨学金が受けられなかったというご説明だったと思いますが、そうですね。

○藤 井 石塚学校教育課長。
教育長

○石 塚 中には成績要件で外れた方、税の滞納で外れた方もいらっしゃいます
学校教育 課 長 が、大半は経済的な要因によるところです。

○森 園 私が思うに、こういうところに申込みされる方は、切実な思いで申し
委 員 込まれると思うのです。必要要件は応募する前に案内されているのです
よね。それでも、あえて出されるわけです。そうすると、経済的にそれ
ほど豊かというわけではないような気がします。その辺りを少し許容す
るということは考えられないのでしょうか。

○石 塚 基準の額からの許容については、その幅をどう設定するかなど、なか
学校教育 課 長 なか難しいところかと感じております。

○森 園 奨学金を受けて頑張りたいと思う親子には、できるだけ申請したらか
委 員 なえてあげたいと基本的には思うのですが、ルールがありますので、理
解はできますが、その辺りを今後、伊藤委員がおっしゃっていたように
見直していただくとうれしいと思っております。

○藤 井 伊藤委員。
教育長

○伊 藤 先ほど、紐づいている規則があって、これだけを変えるには考慮すべ
委 員 き点が出てくるとおっしゃっていましたが、その紐づけを外すには、ど
うしたらいいかを調べていただけないですか。大和市の奨学生の選考基
準を単独で独自に組むには、どういうハードルを乗り越える必要がある
のか知りたいです。以前、それを乗り越えるのがなかなか難しいから配
布方法を変える、また、金額を少し増額するというお話があったと思い
ます。

もちろん、それはそれでやる気やモチベーションにつながっていくと
思います。森園委員がおっしゃったように、多くの方が受給できるよ
う、大和市独自のものがいいのかできないのか、お忙しいと思いますが、
一度そこから調べていただいて、可能であれば独自なものにしてい
きたいです。

○藤 井 前田委員。
教育長

○前 田 同じような意見になりますが、所得要件が一番のネックになっている
委 員 かと思います。数年前までは各学年で申請者が50名前後いて、絞るの
が大変なぐらいだったと思います。ほんの数年前までの話ですが、それ
がもうほぼ3分の1になっているということで、何とかしなければいけ
ないと切実に思っています。

所得要件のところで何とか知恵を絞ってもらいたいと思っています。
ぜひお願いします。

○藤 井 いろいろとご意見ありがとうございました。いただいた意見を参考に
教育長 しながら検討し、宿題もいただいているので、その回答は、また次回に
なるかもしれませんが、お知らせしたいと思います。

ほかはよろしいでしょうか。

(発言する者なし)

それでは、ほかはないようでしたら、質疑を終結いたします。

これより議案第20号について採決いたします。本件の原案について、ご異議はないでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

異議なしということで、議案第20号は可決されました。

◎その他

○藤 井 それでは、その他に入ります。

教育長 本日、予定されている報告事項はございませんが、事務局から何かあるでしょうか。

○事務局 特にございません。

○藤 井 委員の皆様から、何かあるでしょうか。

教育長 (「ありません」の声あり)

特にないようでしたら、8月の会議の日程をお知らせいたします。

8月の定例会は、8月17日月曜日、午前10時からを予定しております。

◎閉 会

○藤 井 以上で、本日の日程は全て終了いたしました。

教育長 これにて教育委員会7月定例会を閉会いたします。

閉会 午前10時29分